

# 菱田春草誕生地公園

～平成 27 年 3 月 29 日開園～



横山大観揮毫の書

「菱田春草誕生の地」整備を願う市民の会  
飯 田 市  
橋北まらづくり委員会



# 菱田春草ゆかりの地をめぐる



① 下伊那教育会館  
春草関連資料の所蔵と研究



② 追手町小学校  
春草が7歳から15歳まで学んだ



③ 春草の墓所 (柏心寺)



④ 飯田市美術博物館  
春草作品の所蔵・展示・研究の拠点



⑤ 飯田城の桜丸御門  
春草の父鉛治は飯田城  
明け渡しの管理人だった



⑥ 福島家住宅  
春草の伯母の家  
市内に残る唯一の武家住宅



⑦ 旧黒須家門  
仲ノ町 武家屋敷跡



⑧ 黄梅院のしだれ桜  
江戸時代からの名桜



⑨ 加納家の紅梅  
飯田藩主から賜った紅梅

所在地 長野県飯田市仲ノ町 307 番地 1  
 アクセス JR飯田線：飯田駅から徒歩 20 分、桜町駅から徒歩 15 分  
 中央道高速バス飯田商工会館から徒歩 15 分  
 中央自動車道：飯田 I C から車で 10 分

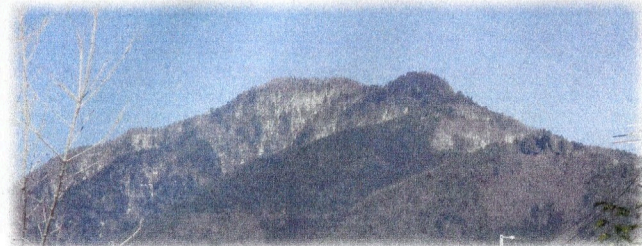
## 菱田 春草

菱田春草は、1874年(明治7)9月21日、飯田市仲ノ町(当時は筑摩県伊那郡飯田町仲之町)のこの地で、飯田藩士菱田鉛治の三男として生まれました。春草は、15歳までここで暮らし、1889年(明治22)に上京して、翌年に設立間もない東京美術学校(現東京藝術大学美術学部)に入学しました。

日本の伝統的芸術が見捨てられようとしていた明治時代にあつて、春草は、岡倉天心の指導を仰ぎ、横山大観・下村観山・木村武山らとともに、新しい日本絵画の創出に挑みました。「朦朧体(もうろうたい)」との批判を受けながらも、絵画の改良を続け、国の重要文化財に指定されている「落葉」「黒き猫」「王昭君」「賢首菩薩」や長野県宝の「菊慈童」をはじめ日本の美術史上に残る多くの名作を描き上げました。満36歳の若さでこの世を去りましたが、描いた数多くの作品は、今なお見る人々に深い感動を与え続けています。



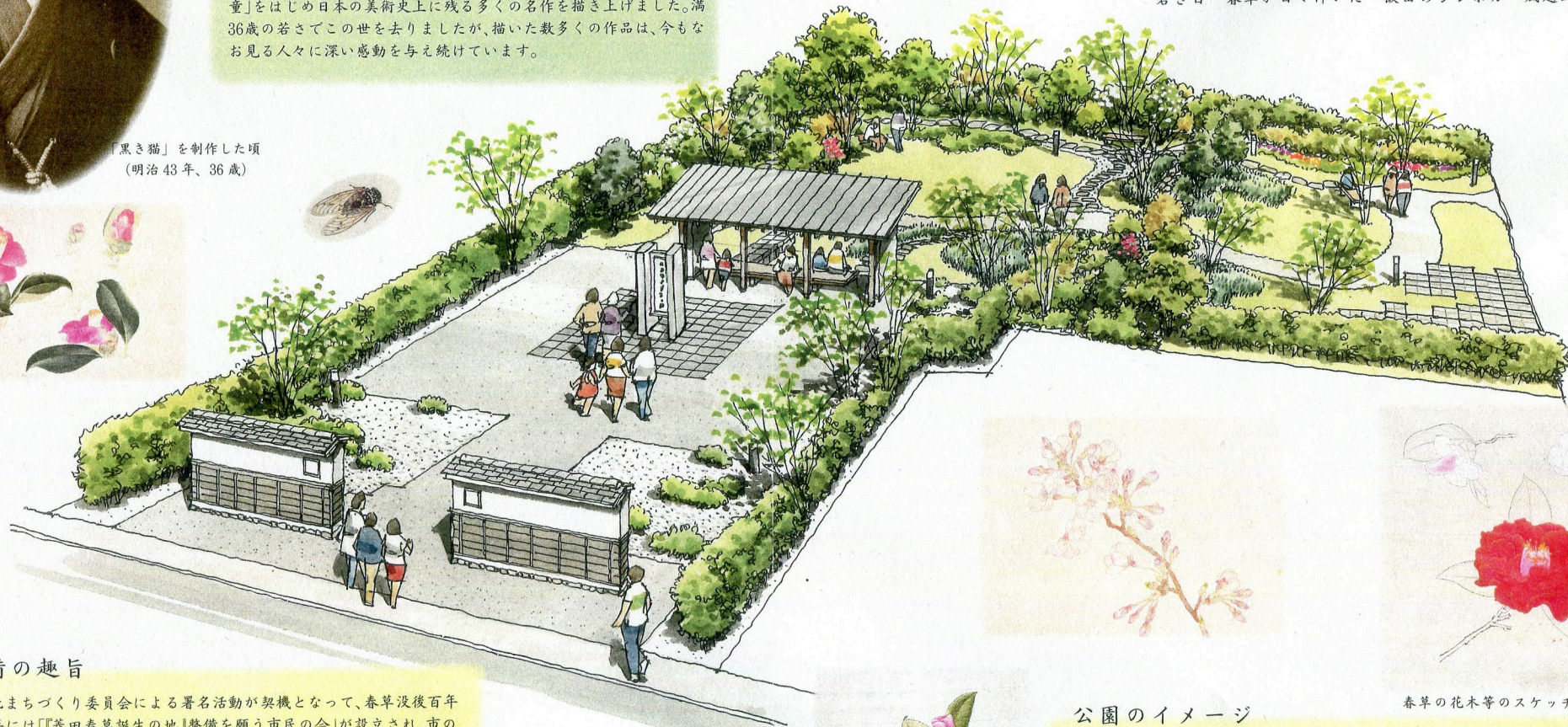
芳村の鳥



若き日 春草が日々仰いだ 飯田のシンボル 風越山



「黒き猫」を制作した頃  
(明治43年、36歳)



春草の花木等のスケッチ (7点)

### 公園整備の趣旨

- 地元の橋北まちづくり委員会による署名活動が契機となって、春草没後百年の平成23年には「『菱田春草誕生の地』整備を願う市民の会」が設立され、市の内外に呼びかけての募金活動が行われました。
- 多くの市民の、春草と飯田のまちを愛する思いが原動力となって公園の整備計画が具体化し、全国公募のプロポーザル方式による基本設計を経て、募金を活かした公園が生誕140周年となる平成26年度に完成のはこびとなりました。
- 公園完成後の管理活用についても、地域住民と市民有志により設立された「春草公園を愛する会」が中心となって行います。
- この公園は、郷土が生んだ菱田春草の偉業を顕彰する拠点となり、市民、そして広く春草作品を愛する人々に親しまれ、育まれていきます。

### 公園のイメージ

- 仲ノ町通りは、飯田城下町の当時には武家屋敷が連なっていた歴史があるため、通りに面して武家屋敷風の塀を配して、当時の趣を再現しました。
- 入った正面には、春草とともに岡倉天心に学び、明治の日本画に革新的な風を起した横山大観直筆の「菱田春草誕生之地」の書を原寸大で再現したモニュメントを配しました。
- 屋根つきのベンチは春草の生家にあった縁側をイメージし、そこから眺められる庭園は春草の絵画やスケッチに描かれた植物を中心に植栽し、四季のうつろい、自然美を感じられる公園としました。

